

男子駅伝部が「奥むさし駅伝」に初出場で優勝果たす！

「第17回奥むさし駅伝競走大会」(主催：飯能市)が、27日(日)、飯能市内の国道299号のコース38.6km(6区間)で行われました。今大会、埼玉医大AC男子駅伝部は、創部2年目にして初出場、初優勝の栄冠に輝きました。

レースは稀にみるデッドヒートを繰り広げ、埼玉医大は強豪コモディイダを最終区で抜き去り見事優勝。2位はコモディイダ、3位は武蔵野学院大、高校の部は埼玉栄高校が優勝しました。



216チームが一斉にスタート。ここから抜け出すのは至難の業。(東飯能駅前)



区間賞の走りでトップ奪取した3区三田選手が4区滝口選手にタスキを託す。(第3中継所)

埼玉医大のメンバーは、選手それぞれが持ち味と力を発揮しました。1区内田健太選手は外国人選手も含めた216人という大集団の中から抜け出して6位、2区越智文弥選手は順位を上げて4位と好位置につけ、3区三田眞司選手が区間新の力走でトップ奪取。4区滝口諒選手、5区大久保泰貴選手は、コモディイダとデッドヒートを演じながら2位をキープ。アンカー柴田純一選手に20秒差の2位でタスキをつなぎました。

最終第6区は、1区(9.9km)に次ぐ長丁場の9.3km。柴田選手は少しずつ差を詰め、残り3kmほどで先頭に追いつくと、虎視眈々とスパートのタイミングを計り、ラスト2km、下り坂にさしかかると一気にスパート。最後は2位に33秒の差をつけてゴールしました。

区間賞が6区間中、三田選手1人ながら、2区以降全員が区間4位以上という安定した力を発揮。今後の活躍を大きく期待させる走りでした。

アンカー柴田選手は、「これをステップにより高いステージで戦いたい」と、来年のニューイヤースタート出場を誓っていました。

今後とも埼玉医科大学アスリートクラブの活躍にご期待いただき、ますますの応援を宜しくお願い致します。



優勝のゴールイン！(柴田選手)



優勝おめでとう！



たくさんの応援ありがとうございました。